

私たちの未来のために

新潟県立長岡高等学校

二年 藤田 梨緒

リオデジャネイロオリンピックが約二十日間の熱戦を終え、閉幕した。今年は、例年以上に日本人選手の活躍が目立ち、連日テレビや新聞紙面をにぎわせていた。私も毎日興奮しながら、テレビで観戦、応援し、選手のがんばる姿を見て、気分が高揚した。

さて、今大会における日本人選手のメダルラッシュ、活躍の裏に、選手強化のための様々な取組があることが調べて分かった。JOCによるアスリートプログラムの実施、選手が快適に練習できる設備の整備など、それらの費用のほとんどが、私たちの税金から捻出されていると考えてよいだろう。そのおかげで、選手はより良い環境の中で練習ができ、オリンピックという大舞台に臨めた。そして、日本人の活躍が、私たちに勇気や活力を与えてくれ、また、私たちの購買意欲を高める。私たちの納めている税金が、巡り巡って日本の発展や大きな経済効果をもたらすことにつながるのだ。

二千二十年には東京オリンピックが開催される。JOCだけではなく、多くの都道府県において、次世代のアスリートを発掘、育成するためのプロジェクトが組まれている。有名な選手だけでなく、これからの日本のスポーツを支える人材

の発掘、育成にもさらに力を入れていってほしい。そして、今回のオリンピック以上に活躍し、私たちに勇気を与えてほしいと願っている。

私の通っている長岡高校は、文部科学省により、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定されている。私たちはこのSSHによって、より高度な授業を受けたり、発展した海外の技術を見学したりすることができている。これも、国民の税金で成り立っているのだ。将来、日本を支える人々のために大切な税金を使うということを、私は日本の未来への貯金だと考える。今すぐには役に立たないかもしれないが、長い目で見たら将来の日本の発展に貢献してくれることだろう。

私の高校は「米百俵の精神」を受け継いでいる。戊辰戦争のあと、困窮に見舞われた長岡藩が支藩から米百俵をもらったが、藩の小林虎三郎が藩士に分け与えずに売却し、学校設立の費用にした、という話である。その建設された学校がのちの長岡高校となった。

オリンピックの選手育成やSSHはまさに「米百俵の精神」と同じである。今すぐには結果は出ないが、将来必ず日本をより良くしていくだろう。

税金は、未来を作り、豊かな暮らしを育む未来への礎である。私も今、税金のおかげで教育を受け、幸せに暮らしている。その恩恵を忘れず、感謝しながら毎日を大切に生活していきたい。また、税金を納めるときは、これが日本の未来を作っていくのだという気持ちで納めようと思う。そして、これからの日本がさらに安心で、様々な意味で豊かな国になっていくよう、税金の意義について改めて考えていきたい。